3月8日の山新より

ICT教育 県内拠点校の取り組み 戸沢小・戸沢中（戸沢）

防災学習に 地図アプリ

戸沢村の子どもたちが通う戸沢小（京野亮校長）と戸沢中（同）は今春、小中一貫の義務教育学校「戸沢学園」として新たにスタートする。施設一体型の現校舎で1～9年生が学ぶ。昨年11月から「1人1台」のタブレット環境を整え、児童生徒の学習意欲アップにつなげている。情報通信技術（ICT）を活用し、自分たちが暮らす古里戸沢の防災について考える4年生の教室をのぞいた。

児童それぞれの机の上にタブレット端末が並ぶ。担任の富塚匠教諭(26)が「自分の家を探してごらん」と呼び掛けると、子どもたちはすぐさま画面にタッチ。自分たちの村のハザードマップに向かい、各自が人さし指を動かす。「あった、俺の家！」

富塚教諭が続ける。「何色になっている？」。洪水などの被害に遭う危険性を色の濃淡で表す地図を見ながら、子どもたちは自分の家だけでなく友達、親戚の家などに目を向ける。さらに大型画面の電子黒板に見慣れた景色が鮮明に映し出された。富塚教諭が地図アプリを使い、さまざまな角度から身近な河川、通い慣れた道を説明。古里には最上川、鮭川、角川といった大きな川が多く流れ、住民の暮らしに深く関わっていることを伝えながら、水害という危険が潜んでいる現実を教えた。

授業を終えた西嶋優平君(10)は「日頃から準備をして（災害に遭わないよう）気を付けたい」と、しっかり聞いていた様子。「パソコンを使っていろんなことが調べられるのがいい」と続けた。横山悠翔君(10)は「パソコンが好き。教科書では分かりにくいところも、パソコンだと拡大して見ることができて便利」と満足そうに話した。

地図アプリを通して大画面に映し出された身近な景色に関心を示す児童たち＝戸沢村・戸沢小

いろんな角度から 危険箇所確認

富塚教諭は3、4年児童向けの社会科副読本「わたしたちの戸沢村」（同村教育委員会制作）のデジタルブック化に協力するなど、地元ICT教育に深く関わっている。その一方で「ネット情報に対するモラル教育も、子どもたちの年齢に応じて進める必要がある」と指摘した。

戸沢中も同様に「1人1台」の環境にあり、学年に応じた教育に幅広く役立てている。新型コロナウイルス感染拡大で余儀なくされた一斉休校から1年が経過する中、リモート教育を実践する場面でも大きな役割を果たしそうだ。

（佐々木亨）

＝おわり

真剣な表情で、端末に向かう児童。「1人1台」の環境が定着している